

株式会社村瀬製菓

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2025年9月30日



大垣共立銀行とOKB総研は、株式会社村瀬製菓（以下、「同社」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、大垣共立銀行とOKB総研が開発した評価体系に基づいている。

---

## 目次

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ.....	1
(1) 株式会社村瀬製菓の企業概要.....	1
(2) 株式会社村瀬製菓の事業概要.....	3
(3) 経営理念.....	7
(4) サステナビリティ.....	8
2. インパクトの特定.....	11
(1) バリューチェーン分析.....	11
(2) インパクトマッピング.....	11
(3) インパクトレーダーによるマッピング.....	12
(4) 特定したインパクト.....	15
(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認.....	17
3. インパクトの評価.....	19
4. モニタリング.....	21
(1) 株式会社村瀬製菓におけるインパクトの管理体制.....	21
(2) 大垣共立銀行によるモニタリング.....	21

---

## 1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

### (1) 株式会社村瀬製菓の企業概要

企業名	株式会社村瀬製菓
創業	1947年
設立	1979年1月
代表者名	村瀬 昌也
資本金	2,000万円
従業員	48人（2025年7月時点、パート等含む）
売上高	681百万円（2024年8月期）
事業拠点	本社・工場 愛知県あま市七宝町安松 8-56 第二工場 愛知県あま市七宝町安松 8-68
事業内容	和菓子・洋菓子製造

#### <本社・工場>



<沿革>

1947年	現代表者の祖父（落雁職人）が個人創業
1978年	本社・第一工場稼働
1979年	株式会社設立し、法人成
2004年	現代表者が代表取締役役に就任
2020年	第二工場稼働、ドーナツ製造開始
2025年	SDGs 宣言

<第二工場>



(2) 株式会社村瀬製菓の事業概要

同社は、和菓子を中心に、伝統的な製法を守りながらも現代のニーズに合わせた多種多様な商品を製造・提供している。創業以来、お供え菓子等の和菓子の製造を手掛けているが、近年では冷凍ドーナツといった洋菓子製造も行っている。

【主な取扱商品】

- 和菓子

<お供え金魚鉢>



高坏容器に色鮮やかな落雁・金平糖・ゼリーを詰め合わせた玩具タイプ商品

<蓮高坏>



仏具の高坏に落雁を組み合わせたお供え菓子で、狭い場所でのお供えに最適な商品

<菊かごゼリー>



竹籠風容器にゼリーと菊落雁を詰め合わせた京風お供え菓子

<五段菊>



コンパクトで立体型の商品。手作りの菊落雁を五段積みした商品

お供え金魚鉢が、日経 POS データ“らくがん”カテゴリーで 2022 年から 2024 年にかけて 3 年連続年間売上 1 位を記録

➤ 製造工程 (落雁)



• 洋菓子

<オールドドーナツ>

外はサクサク、中はしっとり食感の昔ながらのドーナツ



<クリンクルドーナツ>

もちもち食感の生地でかわいらしいドーナツ



★トッピング例★



- 商品種類はプレーン、チョコ、イチゴ、抹茶の4種類
- トッピング（シュガー、クランチ、ナッツ）は自由
- 個包装タイプ（冷凍食品売り場用）と業務用タイプ（インスタアベーカーリー売り場用）があり、多彩な包装デザインが可能

➤ 製造工程（ドーナツ）



【同社の強み】

- 和菓子は生活文化である年中行事と密接に関わりがあり、季節感や風物詩、文化や伝統を伝える役目を担っている。日本の年中行事は大きな販売チャンスであり、この商品特性により和菓子が底堅い需要を保持することができる。また、日本社会の課題といわれる高齢化社会の到来も同社にとって強みの一つとなる。高齢者ほど和菓子を好むという傾向は、あらゆる嗜好調査で明らかになっている。
- 最近の仏壇市場環境は、「伝統型」と言われる大きい仏壇が売れなくなる中、2023年に大手仏壇メーカーが家具と調和する「モダン型」のリビング仏壇を過去最大基数販売したとのニュースから、ホームセンター等の異業種が参入し仏壇購入への敷居が下がっている。このため最近のお供え菓子トレンドは、仏壇の小型化に伴う「コンパクトで立体型」商品あるいはお洒落なモダン仏壇に合う「京風菓子・雑貨タイプ」商品が注目されており、同社の主力商品の販売実績は軒並み好調である。
- 一方、冷凍ドーナツについては、ドーナツ専門店の増加やコンビニなどでのドーナツ販売など、ドーナツブームにより市場が著しく成長している。同社は取引先からの製造依頼を受け冷凍ドーナツ市場に参入し、落雁等和菓子の手作り製法・手法を活かして冷凍ドーナツを製造している。また、全国各地で試食販売会を実施し、顧客に冷凍ドーナツの利便性（長期冷凍保存が可能・レンジ解凍ですぐに食べることができる）を伝え認知度を高めることで売上増加につなげている。
- 同社の和菓子は既に北海道から沖縄県まで日本全国のスーパーでの販売体制が確立されており、この取引先との強いつながりや実績から冷凍ドーナツも同様の販売網を有することとなった。また、最近はその商品特性から、高速道路のサービスエリアや道の駅、大学生協等においても販売されている。さらに、国内にとどまらず、アメリカやアジア（中国、韓国、台湾）及び中東など海外にも商社を通じて販売されている。和菓子と洋菓子の双方を製造することができる数少ない企業として、その相乗効果は計り知れない。
- 明治時代から製造方法をほとんど変えずに受け継いでいる手作りの半生菓子を製造している。

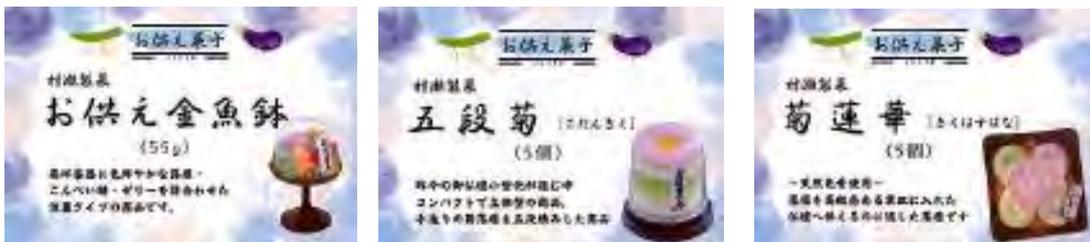


【今後の展開】

- 先述した仏壇の市場環境より、お供え菓子の需要が増加している。同社の主力商品である和菓子を中心に、特に、東北地方・九州地方での販売網拡大を狙う。同社の独自調査による各種データを基にエリア特性やトレンドを分析・把握のうえで、同地区のスーパーとの連携を強化していく。
- 和菓子について、競合他社において価格値上げ情報があるが、同社では原材料の仕入れルート変更や経費削減を進め、コストアップの吸収を図り、従来価格を維持する。価格優位性を確立し、競争力を強化し市場シェアを拡大させる。
- 現在のトレンドである冷凍ドーナツは各社が売り場を拡大している。ドーナツブームもあり、大手飲食店への展開を図っていく。
- 和菓子、ドーナツともに、取引先の売り場イメージに合わせたオリジナルの販促 POP を作成・活用し、顧客の店内における導線確保を提案していく。

<POP (例) >

➤ 和菓子



➤ ドーナツ



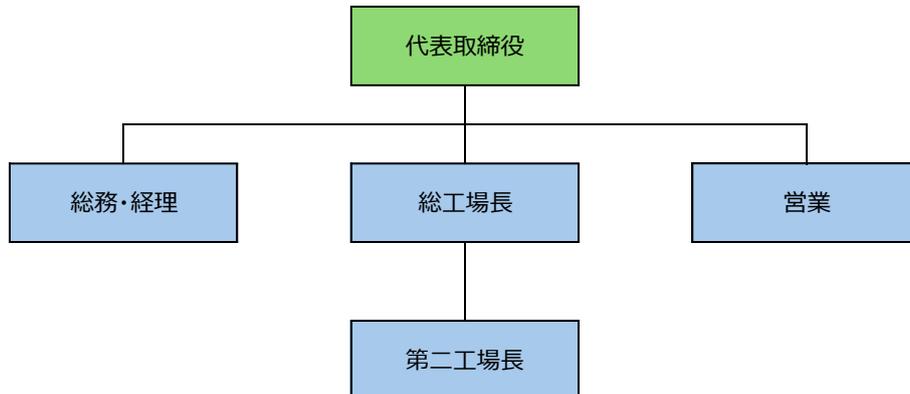
(3) 経営理念

同社は、顧客に喜んでもらえるコストの良いおいしい商品を届けるためには社員が働きやすい職場環境を整備することが必要と考え、以下の代表者メッセージの下、事業活動に取り組んでいる。

【代表者メッセージ】

社員の幸せ  
お客様の幸せ

【組織体制】



#### (4) サステナビリティ

同社は SDGs 宣言を定め、これを指針として課題に取り組んでいる。

##### 「SDGs 宣言」

###### 商品・サービス

70 年以上にわたり培ったお供え菓子の技術と経験により、豊かな日本の食文化と伝統をこれからも支えてまいります。また、未来に向けて菓子文化の創造を続けるため、新たな提案や開発に積極的に取り組んでまいります。

###### 環境

食品事業者としてフードロス削減に向けて 3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進するとともに、省エネ活動の積極的な取り組みを通じて脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

###### 人権・働きがい

多様な人材が活躍できる企業を目指し、柔軟な勤務体系の整備や人材育成を推進してまいります。さらに従業員一人ひとりが健康でやりがいを持って働ける職場環境を構築してまいります。

###### 地域貢献・社会貢献

地元あま市に根差した企業として、次世代を担う子供たちへの物資支援を行うとともに、地域社会の活性化に繋がる取り組みに積極的に参画してまいります。

それぞれの重点項目(マテリアリティ)において、具体的には以下のような取り組みを行っている。

##### ① 商品・サービス

- 徹底した品質管理と製造工程の継続的な改善により、高品質かつ信頼性の高い商品を提供
- 適切な在庫確保等により、全国の納品先へ迅速な対応と安定供給を実現
- 産学連携による新しい技術や商品の開発



##### ② 環境

- 廃棄物の適切な分別を通じてフードロス削減やリサイクルを推進
- ボイラーの入れ替えや HV 車の導入等による省エネ活動の推進
- パッキング技術の改善・向上により輸送時等の商品破損を抑え、資源の有効活用を推進



③ 人権・働きがい

- 国際的な人材の採用等、多様な人材が活躍できる環境づくりの推進
- 時間外労働の削減や多様な働き方の整備を通じて従業員のワーク・ライフ・バランスを実現
- コミュニケーションの機会提供や定期健診のフォローを通じた健康経営の推進



④ 地域貢献・社会貢献

- 児童養護施設への商品提供等、子供たちに喜んでもらえる取り組みを実施
- 近隣のお祭りへの商品提供や地元の神社への寄附の実施
- 地元大学との共同研究を実施し次世代人材の育成に貢献



その他 (SDGs 宣言以外)

- 児童養護施設に同社のドーナツを無償提供



- 愛知学院大学商学部のゼミと提携  
ゼミ生がドーナツ等の市場調査を行い新商品のアイデアを検討  
代表者等による講義も実施  
〈愛知学院大学での同社による講義風景〉



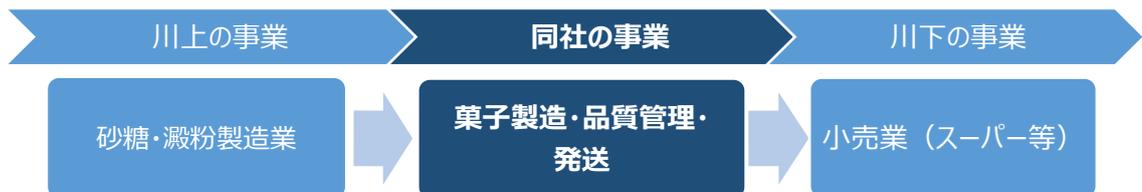
- 地元の神社が一部破損したため、修繕支援のための寄付金を拠出
- 地元の祭りに同社のお菓子を提供

## 2. インパクトの特定

### (1) バリューチェーン分析

- 同社は、落雁や最中等の伝統的な和菓子を製造する菓子製造事業と、長期保存が可能な冷凍ドーナツを製造するパン・菓子製造事業を行っている。商社を介して全国の大手スーパーや飲食店を中心に提供している。

#### 【菓子製造事業】



#### 【パン・菓子製造事業】



### (2) インパクトマッピング

- 大垣共立銀行は、先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。

#### 【菓子製造事業】

- 同社の事業を、「ココア、チョコレート及び砂糖菓子製造業（国際産業分類：1073）」とする。
- 川上の事業を、「澱粉・澱粉製品製造業（同：1062）」、「砂糖製造業（同：1072）」、「プラスチック製品製造業（同：2220）」とする。
- 川下の事業を、「食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業（同：4711）」とする。

#### 【パン・菓子製造事業】

- 同社の事業を、「パン製品製造業（同：1071）」とする。
- 川上の事業を、「精穀・製粉業（同：1061）」、「プラスチック製品製造業（同：2220）」とする。
- 川下の事業を、「食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業（同：4711）」、「レストラン及び移動式飲食業（同：5610）」とする。
- 以上の事業について、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト（以下 PI）」と「ネガティブインパクト（以下 NI）」を想定する。

(3) インパクトリーダーによるマッピング

【菓子製造事業】

バリューチェーン			川上の事業						同社の事業		川下の事業		
業種 (国際標準産業分類コード)			澱粉・澱粉製品製造業 (1062)		砂糖製造業 (1072)		プラスチック製品製造業 (2220)		ココア、チョコレート 及び砂糖菓子製造業 (1073)		食料品、飲料または たばこが主な非専門店 小売業 (4711)		
大分類	インパクトエリア	インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	
社会	人格と人の安全保障	紛争											
		現代の奴隷制度											
		児童労働											
		データのプライバシー											
		自然災害											
	健康と安全	健康と安全	●	●		●		●	●	●		●	
		水											
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質	食糧	●●	●	●	●●					●●	●	●
		エネルギー											
		住居											
		健康と衛生											
		教育											
		移動手段											
		情報											
		コネクティビティ											
		文化と伝統	●		●					●			
		ファイナンス											
	生活	雇用	●		●		●		●	●		●	
		賃金	●	●●	●	●●	●	●●	●	●●	●	●	
		社会的保護		●		●		●		●		●	
平等と正義	ジェンダー平等												
	民族/人種の平等												
	年齢差別												
	その他の社会的弱者												
社会経済	強力な制度、平和、安定	法の支配											
		市民的自由											
	健全な経済	セクターの多様性											
		零細・中小企業の繁栄	●		●					●		●●	
	インフラ	インフラ											
経済収束	経済収束												
自然環境	気候の安定性	気候の安定性		●		●		●		●			
	生物多様性と健全な生態系	水域		●		●		●●		●			
		大気		●●				●					
		土壌						●					
		生物種						●					
		生息地						●					
	サーキュラリティ	資源強度		●●		●●		●●		●●			
		廃棄物		●●		●●		●●		●●			

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

【パン・菓子製造事業】

バリューチェーン		川上の事業				同社の事業		川下の事業					
業種 (国際標準産業分類コード)		精穀・製粉業 (1061)		プラスチック製品製造業 (2220)		パン製品製造業 (1071)		食料品、飲料または たばこが主な非専門店小売業 (4711)		レストラン及び 移動式飲食業 (5610)			
大分類	インパクトエリア	インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	
社会	人格と人の安全保障	紛争											
		現代の奴隷制度											
		児童労働											●
		データのプライバシー											
	健康と安全	健康と安全	●	●		●	●	●		●		●	
		自然災害											
	資源とサービスの入手 可能性、アクセス可能性、 手頃さ、品質	水											
		食糧	●●	●			●	●●	●	●	●		
		エネルギー											
		住居											
		健康と衛生											
		教育											
		移動手段											
		情報											
		コネクティビティ											
		文化と伝統	●				●					●●	
	ファイナンス												
	生活	雇用	●		●		●		●	●		●	
		賃金	●	●●	●	●●	●	●●	●		●	●	●
		社会的保護		●		●		●		●		●	●
平等と正義	ジェンダー平等												
	民族/人種の平等												
	年齢差別												
	その他の社会的弱者												
社会 経済	強力な制度、平和、安定	法の支配											
		市民的自由											
	健全な経済	セクターの多様性											
		零細・中小企業の繁栄	●				●		●●				
インフラ	インフラ												
経済収束	経済収束												
自然 環境	気候の安定性	気候の安定性		●		●		●					
	生物多様性と 健全な生態系	水域		●		●●		●					
		大気		●●		●							
		土壌				●							
		生物種				●							
		生息地				●							
	サーキュラリティ	資源強度		●●		●●		●●					
		廃棄物		●●		●●		●●				●	

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

同社の事業において発現したインパクトについて、カテゴリ毎の対応するSDGsターゲットを整理する。  
 なお、川上・川下の事業は、同社が与える影響は限定的であるため、インパクトを特定しない。

【菓子製造事業】

	大分類	インパクトエリア	インパクト		取組内容	対応するSDGs	
			PI	NI			
同社	社会	健康と安全	健康と安全	○	○	お供え菓子は、故人との思い出を大切に、家族の絆を深めることができるため、人々のウェルビーイング実現に貢献している。 製造、品質管理、発送まで一貫して対応できる体制により、安全な菓子等を提供している。 今後は、JFS-B規格またはFSSC22000の認証などの品質規格を取得し、より品質の高い商品の提供に取り組んでいく。 残業時間は月平均20時間以下、有給休暇取得率100%と、働きやすい職場環境を構築している。	3 8.8
		資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質	文化と伝統	○		伝統的な製法を守りつつ、現代の嗜好に合わせた商品開発に取り組んでおり、和菓子文化の継承に貢献している	11.4
		生活	雇用	○		事業拡大に伴う採用人数増加を検討している。	8.6
			賃金	○		今後、定年退職者が増加することを見据え、退職金制度等の賃金制度の見直しを検討している。	8.5
		平等と正義	その他の社会的弱者	○		規格外品を地域の子ども食堂に寄付している。	10.2
	社会経済	健全な経済	零細・中小企業の繁栄	○		和菓子製造事業者が減少する中、同社はレスポンスの早さと、高い市場分析力により、安定した商品提供が可能であり、全国の消費者のニーズに応えることができる。	9.1
	自然環境	気候の安定性	気候の安定性	○		製造工程の見直し、冷凍庫などを省エネ性能の高い製品への入れ替えなどを通じて、CO2排出量削減に取り組んでいく。	13.2
		サーキュラリティ	廃棄物	○		バイオマスプラスチックを使用した包材へ切り替える等、環境に配慮した商品開発に取り組んでいく。 規格外品を寄付する等、フードロスに取り組んでいる。	12.5

※同社の「その他の社会的弱者」のPIは、同社固有のインパクトとして追加する。

※インパクトレーダーで発現したインパクトのうち、上記表に不記載のインパクトは、同社の事業と関連性が低いため、評価対象外とした。

【パン・菓子製造事業】

	大分類	インパクトエリア	インパクト		取組内容	対応するSDGs	
			PI	NI			
同社	社会	健康と安全	健康と安全	○		ドーナツは、気分を高めたり、ストレスを軽減する効果があり、人々のウェルビーイング実現に貢献している。	3
	社会経済	健全な経済	零細・中小企業の繁栄	○		2020年からはドーナツ製造事業を開始し、和菓子製造で培った高い技術力を活かして、品質の高い商品を提供している。	9.1

※インパクトレーダーで発現したインパクトのうち、上記表に不記載のインパクトは、同社の事業と関連性が低い、または菓子製造事業と重複するため、評価対象外とした。

#### (4) 特定したインパクト

以上を踏まえて、同社のインパクトをESG（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。

### 環境（Environment）

#### 環境に配慮した経営の推進

- 同社は、事業活動による環境負荷軽減に取り組み、環境に配慮した経営を推進していく方針である。
- 具体的には、製造ラインの効率化による生産性向上に向けた取り組みや、機械や冷凍庫等を省エネ性能が高い設備へ順次切り替えることでCO<sub>2</sub>排出削減に努めていく。
- さらに、落雁等の包装で使用するプラスチックの使用量を削減、またはバイオマスプラスチックを利用した商品等へ切り替えるなど、環境に配慮した商品づくりに取り組んでいく。
- また、製造工程のマニュアル化等を通じた不良品発生抑制に向けた取り組みを推進するとともに、規格外品については、子ども食堂へ寄付する等により「フードロス0」を実現している。
- このインパクトは「気候の安定性」、「廃棄物」のカテゴリに該当し、自然環境面のNIを縮小すると考えられる。
- SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。
  - 12.5：2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
  - 13.2：気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。

### 社会（Social）

#### 品質の高い商品の安定的な供給

- 同社の主力商品である「落雁」は、お供え物としてだけでなく、縁起物や魔除けの意味を持つ「日本ならではの和菓子」として根強い需要があるが、和菓子製造業者は減少傾向にある。
- 同社は、独自調査による各種データを基に市場ニーズ等を把握し、顧客ニーズに応えられる商品提供が可能である。また、近時の原材料高の影響により、価格値上げを行う企業が多いなか、同社では原材料の仕入れルート変更や経費削減を進めコストアップの吸収を図り、従来価格を維持して価格優位性を確立し、競争力を強化し市場シェアを拡大させていく。
- また、2020年からは新たに「冷凍ドーナツ製造」を開始した。大手ドーナツメーカーと同じ機械を使用した、品質の高いドーナツを安価で提供している。また、大学と共同で商品のアイデア開発も行っている。
- 今後は「FSSC22000」等の品質規格を取得し、より高品質な商品を提供していくとともに、災害時などにおける事業の継続性の確保が重要であることから、2026年度までに水害や地震の発生を想定したBCP（事業継続計画）を策定し、年1回以上、従業員を対象とした防災等に関する研修を実施する予定である。
- このインパクトは「健康と安全」、「文化と伝統」のカテゴリに該当し、社会面のPIを拡大すると考えられる。
- SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。
  - 3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

### 働きやすい職場環境の構築

- 同社は、積極的に採用に取り組んでおり、従業員のおよそ3分の2が20～40代と、比較的若手が多い職場環境である。今後も事業拡大による人員不足が懸念されることから、引き続き新卒・中途ともに採用を行っていく。
- 福利厚生面においては、有給休暇の取得率は100%であり、時間外労働は月平均20時間以内に抑えるなど、ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる。
- 今後は、人事制度の見直しにより評価基準の透明化を高める等、より長く働きやすい職場環境の構築を図っていく。
- このインパクトは「雇用」、「賃金」のカテゴリに該当し、社会面のPIを拡大すると考えられる。
  - 8.5：2030年までに、若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。
  - 8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する

## 企業統治（Governance）

### 安心して働ける職場環境の構築

- 同社は、すべての従業員が安心・安全に業務に取り組める環境づくりを重要課題と位置付け、事故防止マニュアルの制定等、労働災害の未然防止に向けた継続的な対策の強化に取り組んでいる。
- また、従業員が心身ともに健康で働くことができるよう、「健康経営優良法人」の認定取得を検討している。
- このインパクトは「健康と安全」のカテゴリに該当し、社会面のNIを縮小すると考えられる。
- SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。
  - 8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認

① 国内におけるインパクトニーズ

- 国内における「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 上記工程を経て特定した、同社のインパクトに対する SDGs は、「3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」、「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する」、「12. 持続可能な生産消費形態を確保する」、「13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」に対して、国内における SDGs ダッシュボードでは、「12、13」において大きな課題が残る、「8」において、課題が残るまたは重要な課題が残るとなっており、国内のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



② 大垣共立銀行が認識する社会課題との整合性

- 大垣共立銀行は、「サステナビリティ基本方針」において「地域経済の持続的成長」「地域のイノベーション支援」「多様な人材の活躍推進」「気候変動対応、環境保全」「地域資源の活用」「コーポレートガバナンスの高度化」の6つを重点課題（マテリアリティ）としている。
- 同社の特定したインパクトは以下の通り、大垣共立銀行の重点課題（マテリアリティ）と方向性が一致する。

同社の特定したインパクト	大垣共立銀行の重点課題 (マテリアリティ)
環境に配慮した経営の推進	気候変動対応、環境保全
品質の高い商品の安定的な供給	地域経済の持続的成長
働きやすい職場環境の構築 安心して働ける職場環境の構築	多様な人材の活躍推進

以上のように、大垣共立銀行は本件の取組みが、SDGs の達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。

### 3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する

#### 環境に配慮した経営の推進

項目	内容
インパクトの種類	自然環境的側面において NI を縮小
カテゴリ	「気候の安定性」「廃棄物」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LED の 100%導入や省エネ設備の導入等により、消費電力量・CO<sub>2</sub>排出量の削減を図り、環境負荷軽減を推進する</li> <li>・プラスチック利用量を削減、またはバイオマスプラスチックを用いる環境に配慮した包装材を採用することで、廃棄物削減・資源循環型社会の実現を図る</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年度中に CO<sub>2</sub>排出量の算定を開始し、2025 年度を基準として 2030 年度までに 30%削減する</li> <li>・2030 年度までに社内使用電力の 30%を再生可能エネルギー由来に転換する (2025 年 7 月時点 : 0%)</li> <li>・2027 年度までに社内 LED 導入率を 100%にする (2025 年 7 月時点 : 工場のみ導入)</li> <li>・2031 年度までに環境に配慮した包装材を使用した和菓子商品の割合を 30%以上にする (2025 年 7 月時点 : 0%)</li> </ul>

### 品質の高い商品の安定的な供給

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大
カテゴリ	「健康と安全」「文化と伝統」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代のニーズに対応した商品を継続的に創出し、お供え菓子市場に新しい価値を提供する</li> <li>・南海トラフ地震や豪雨水害等を想定した BCP 体制を確立する</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2031 年度までに売上高を 10 億円以上に （2023 年度 6.8 億円）</li> <li>・お供え菓子について、毎年 1 品以上新商品を発売する</li> <li>・2031 年度までに JFS-B 規格または FSSC22000 の認証を取得する</li> <li>・2026 年度までに水害・地震発生を想定した BCP を策定し、年 1 回以上従業員に向けた防災等に関する研修を実施する</li> </ul>

### 安心して働きやすい職場環境の構築

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大 社会的側面において NI を縮小
カテゴリ	「健康と安全」「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長く安心して働ける環境づくりに努めるとともに、地域の雇用創出に貢献していく</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2030 年度までに正社員数を 20 名以上に （2025 年 7 月時点：18 名）</li> <li>・2026 年度までに健康経営優良法人認定を取得し、以降継続する</li> </ul>

#### 4. モニタリング

##### (1) 株式会社村瀬製菓におけるインパクトの管理体制

- 同社では、村瀬社長を中心に、本 PIF におけるインパクトの特定ならびに KPI の策定を行った。
- 今後については、本件にかかる責任者を村瀬社長とし、SDGs の推進、ならびに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

##### (2) 大垣共立銀行によるモニタリング

- 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と大垣共立銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

**【留意事項】**

1. 本評価書の内容は、大垣共立銀行とOKB総研が現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 大垣共立銀行、およびOKB総研が本評価に際して用いた情報は、大垣共立銀行およびOKB総研がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利はOKB総研に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳および翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。